

# act

## 41

art, culture, tradition

劇作家と演出家

[発行] 札幌市教育文化会館

アクト第41号

July 2022



# 劇作家と演出家の仕事

演劇作品を観劇した後に、「この世界をもう少し味わってみたい」と上演台本を購入したことはありますか?きっと上演台本を読んだ人は、その直前に観た作品世界と、また違う味わいを楽しんだのではないでしょうか。この「台本(脚本)」(※)を手がけるのが劇作家で、そこに描かれた作品世界を具現化するのが演出家です。未来の劇作家と演出家へ向けて、両者の仕事をご紹介します。

※本記事中に「台本」と「脚本」は同じ意味で使用しており、どちらも上演するための本を指します。「戯曲」は上演を前提としない文学作品としての本を指します。  
参照WEBサイト「シアターリング」内「舞台・演劇用語」 <http://www.moon-light.ne.jp/termi-nology/meaning/scenario.htm>





## Playwright

劇作家

何かしらのテーマを出発点として、それぞれのやり方で物語化された1本の脚本が出来上がる。日本劇作家協会が運営するWEBサイト「戯曲デジタルアーカイブ」でさまざまな戯曲が公開されているので、現代の劇作家による多種多様な戯曲の世界をのぞいてみてください。



## 演出家

脚本を読み込み、アイデアを駆使してそこに描かれた世界を舞台上に具現化する。古典戯曲や名作と呼ばれる現代の戯曲が上演のたびに新しい息吹を与えられるのは、まさに演出の妙。研鑽の場としては日本演出者協会が主催する「若手演出家コンクール」などがある。

## Director

[インタビュー]

## INTERVIEW

一口に「台本(脚本)」を手がけるのが劇作家で、そこに描かれた作品世界を具現化するのが演出家」と言っても、やり方は千差万別。本特集はその一端を紹介するとともに、未来の劇作家と演出家へ向けた入門的な内容を目指しました。

ご協力していただいたのは、教文短編演劇祭2022で台本審査員を務めた弦巻啓太さんと、国内外の戯曲を多く演出し北海道演劇財団の芸術監督も務める清水友陽さん。誰かの「やってみたい」を後押しできますように!

## 着想を物語へ展開する。物語を舞台上に具現化する。

## 脚本

—脚本を書くために必要な、普段からできる準備はありますか?

弦巻 「こんな物語をやりたいな」という着想があって、そこに例えば「観客の心を動かしたい」という願いがあったとします。その願いを形にしていくとき、その人自身が心を動かされた経験が大事になってくると思うんです。日頃から映画でもスポーツでも、音楽でも漫画でもとにかくいろんなものに触れて、例えば何か感動するものに出会ったら「なぜ自分は感動したのだろう?」と要素や仕掛けを分析してみる。僕自身、好きな映画や音楽を参考に「これを演劇に置き換えるとどうなるだろう?」とよく考えます。

清水 僕は普段面白いことや言葉を見つけたら、ネタ帳に書き留めておくようにしています。自分の劇団に書くときはそうやって拾ってきたものの中から、何かつながりそうなものを持ってきて書くようにしています。

—どのように書いていくと良いでしょう?

清水 人によって書き方は違うのですが、僕は外部から依頼を受けて脚本を書くときは、「そこに誰がいて」「誰と誰を喋らせたいか」という感じで人の組み合わせをパズルのように組み立てていくことが多いです。自分の劇団のときは登場人物の設定を半年くらいかけて考えて、その登場人物が喋り出すのを断片的に書き取り、つなぎ合わせるような書き方をしています。

弦巻 僕は中学2年で初めて台本を書いて以来書き方は変わっていません、まず人間関係の設定を考えます。そして具体的に誰に演じてもらおうか考える。この役は山崎努さんにお願いしようとか、勝手に頭の中で好きな人を選びます。そしてプロット(あらすじ、構成)を立て、先ほど挙げた分析をどの

ように埋め込んでいかながら徐々に物語にしていきます。ただ最後まで書き上げるというのが本当に難しくて、弦巻楽団で開催している戯曲講座でも、書いている途中でみんな割と諦めてしまうんですね。執筆に必要な力は二つしかなくて、書き出す力と書き終える力です。

清水 全く同感です。

弦巻 多分自分の書いている作品の面白くなさに潰されてしまうんです。鴻上尚史さんの戯曲に「君が書いたものは、君にはつまらないんだ。だって、君が書いたんだからね」という台詞があって、高校生のときに読んで泣きました…。

—未来の劇作家へ向けてメッセージをお願いします。

弦巻 もっと面白い作品、優れた傑作が世の中にはあふれているかもしれないけど、あなたが書く一作はあなたにしか書けないもので、その作品でしか感じ取れない何かがあるかもしれない、なので思いついたらぜひ書き上げてほしいです。

清水 世界平和みたいに対象をすごく広くしちゃうと何を書いていいのかわからなくなるけど、世界平和の中のすぐ近くにいる人に対しての作品だともう少し具体的にイメージができるので、行き詰まつたら自分の身近なことに一旦置き換えてみると書きやすくなるんじゃないかなといつも思っています。

て調整する。最終的に決定するのは演出家だけど、調整するっていうのが演出家の一つ大きな仕事なんじゃないかな。

弦巻 そして演出家がまとめたプランを具現化するのが舞台監督ですね。演出家が2秒で転換したいと言ったら、テクニカルスタッフや役者など全ての要素を鑑みて2秒で転換できるよう指揮を取るのが舞台監督。

—演出のために普段からできることはありますか?

清水 自分の中で大事にしているのは旅に出かけることです。匂いや温度、街並みからインスピレーションをもらえるので、別に遠くの場所じゃなくても、海の話を演出するなら実際に役者と海に行って稽古してみると、そういうことはよくします。

弦巻 例えば青少年科学館だったら「磁石を使ったらこういうことができるんだ」とか「こういうセットを組んだら、音はこう響くんだ」とかネタの宝庫です。演劇はいろいろなものを取り入れて遊べる分野なので、「このアイデアをもっと広げたらどうなるかな」と試してみることはよくします。グラミー賞でBTSがジャケットを使った振り付けをしていて、実際にできるか稽古場でやってみたりしました。

—演出はどのように学べば良いでしょう?

清水 中高生の場合は多分演劇部の先生や先輩のやり方があるから、直接的に見て学ぶのはいいと思う。ただそれ以外にも面白い方法や考え方があるかもしれない。「他の人たちはどんなことをやっているのかな」と興味のアンテナを広げておいて、外でワークショップがあったら参加してみる。できれば何人かで行って、思ったことを話し合うこと。そして「これをちょっと改良して部活の練習方法に入れてみようか」という風にしていくと、毎年進化して面白いことになっていくかもしれない。いろんなやり方に触れることで自分に合った方法論が見つかること

## PROFILE

## 弦巻 啓太

TSURUMAKI KEITA

弦巻楽団代表。脚本・演出家。中学生から独学で演劇を始める。『死にたいヤツら』『果実』『ナイトスイミング』など代表作多数。日本演出者協会に所属し、現在『若手演出家コンクール』の審査員も務める。



## 清水 友陽

SHIMIZU TOMOAKI

演出家・劇作家。札幌で活動する劇団清水企画代表。創作活動以外にも、子どもたちを対象にした表現ワークショップや、大学で表現の授業の非常勤講師を務める。北海道演劇財団常務理事・芸術監督。



し、自分たちの世代に合った作品づくりにつながっていくんじゃないかな。

弦巻 いろいろな作品を生で体感して、「こういうことをやってもいいんだ」と身につけていくことがまず第一歩かなと思います。あとこの号が出る頃には終わってしまっているのだけど、弦巻楽団で演出ワークショップを初開催します。うまくいったら、次年度からは劇場を借りて実施しようと考へているので、ぜひ参加して下さい(笑)。

—未来の演出家へ向けてメッセージをお願いします。

清水 同い年でも先輩後輩の関係でも自分のやりたいことをきちんと伝えて、「こうした方が面白くなるかもしれない」ということを話し合いながら、時間の許す限り妥協しないことが演出の醍醐味です。

弦巻 面倒臭い役回りではあるけれど、100%自由な空間で自分のやりたい世界を目指してつくっていく楽しさを味わってほしいです。

※舞台監督の仕事についてはact 38号も参考にどうぞ。

## 仕事の流れ

| 劇作家と演出家の主な仕事の流れをご紹介。

## 劇作家

## 着想を得る

「ぼんやり書きたいなと思うエッセンスは一つの台詞や場面だったり、気になる社会問題だったりとさまざま」と弦巻さん。

## 構成(プロット)を練る

四コマ漫画で考えたり、困ったら場面を遡って展開させたりしながら構成を考える。プロットなしの即興スタイルもあり。

## 執筆する

書き進めるうちに「これって面白くないのでは…」という不安に苛まれるのは誰もが通る道。まずは最後まで書き上げること!

## 納品

「締め切りを守るのが一番大事(By弦巻&清水)」。稽古開始後にリライトの依頼があれば調整し、場合によっては稽古を見学。

## 演出家

## 取材

納品された脚本に関して、舞台となる場所や登場人物について書籍を読んだり、実際に足を運んだりして自分なりに取材する。

## 演出プランを立てる

脚本の世界をどう具現化するか考える。プランができたら、舞台監督や音響、照明、美術等のテクニカルスタッフと打ち合わせ。

## 稽古

「目指していたことを稽古に反映できているかセルフチェックすることが大事」と清水さん。集団創作なので話し合いの場を設けることも忘れずに。

## 本番

作品は観客がいないと完成しないので、初日のお客様の反応をチェックして「ここは違うんだな」という箇所があれば微調整。

## 公演情報 | 弦巻さんと清水さんの手がける公演も要チェック!

## 弦巻楽団

## 『秋の大文化祭!』

[日 時] 2022年11月19日(土)~20日(日)

会場・上演等詳細は劇団公式HPで発表される情報を待ち下さい。

[劇団公式HP] <https://www.tsurumaki-gakudan.com>



弦巻楽団 #36『死にたいヤツら』

## 劇団清水企画 第23回公演

## 『秘湯河童ノ淵停車場』

作・演出 清水友陽

[日 時] 2022年12月9日(金)~11日(日)

[会 場] 扇谷記念スタジオシアターZOO

[料 金] 一般 / 3,000円(税込)  
U25 / 1,500円(税込) 高校生以下 / 500円(税込)

[お問い合わせ] [gekidanshimizukikaku@gmail.com](mailto:gekidanshimizukikaku@gmail.com)



劇団清水企画第22回公演  
『だれば箱づめの亡者』